

想遠館(同志社中学校・高等学校)



〈左：想遠館(竣工日 2010年3月3日)、右：立志館〉



美術教室



理科メディアスペース



技術教室

「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を想う心を与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めるから終わりまで見極めることは許されていない。」(旧約のコヘレトの言葉3章11節)

これは、2007年11月28日(水)午前11時に岩倉キャンパス南エリア建設予定地で挙行された『同志社中学校・高等学校統合事業 第1期建設工事 起工式で朗読された聖書の言葉です。

戦後の教育改革によって、1948年に新制の中学校、高等学校としてそれぞれ独立し、1949年に高等学校が岩倉校地に移転して以来、長らく別々の場所で同志社教育を担ってきた中学校と高等学校が、「時が満ち」、「機が熟して」統合していくスタートが切られた歴史的瞬間に心に刻まれた言葉です。「何事にも時があり」で始まるコヘレトの言葉の一節一節に、「中高統合」を表わす象徴的な言葉と教科の特徴としての「手を用いて労作を生み出す」ことへの遥かなる想いとこの2つを込めて命名されました。

高校教室棟の『桑志館』は南エリア、中学教室棟の『立志館』は北エリアにあり、その中間エリアには、中高が共用で使う建物配置されています。『想遠館』は創作芸術棟として、中高の美術教室、家庭科教室として共用で使用する他、中学の技術教室、理科教室、生徒会室などが配置されています。



竣工 1985年3月



讃光館は1985年3月12日に献堂式を行った同志社香里二代目の管理棟である。初代の管理棟（本館と称していた）は香里学園と同志社の合併当時から利用しており、木造二階建てで、内部には校長室、事務室、小教員室、会議室等が入っていた。校舎の老朽化に伴い、現在の讃光館に建て替えを行った。先代と同じく校長室、事務室、会議室等を配置し、管理面での中枢を成している。また、教員室を拡大し、総務部、教務部を配置し、生徒の成績処理等教学面でも中枢的働きをしている。

二階には大会議室、中会議室、小会議室と三つの会議室を配置し、教職員会議、外部団体の会議など各種会議も行っている。校長室や応接室には、香里学園の歴史を継承するため、当時の机や衝立、ガラスケース等を今も利用し、常に身近なところで歴史を感じることができる。

館名の由来は新約聖書ヨハネによる福音書8章12節「イエスは再び言われた。『わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。』」によるものである。

建築後30年が経過し、施設の老朽化が進んでおり、2012年8月には空調設備の改修、2015年8月には外壁の改修を行った。その甲斐あって建設当初の美しい姿に戻っている。